

平成27年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

メ ッ セ ー ジ

前館長 牧 恒 男

早いもので、昨年4月に館長に就任して一年が経ちました。そして、この3月の末日をもって定年退職いたしました。

この間、友の会の皆さまには、たいへんお世話になりましたことを、紙面をお借りして感謝申し上げます。

平成27年度とは、平成18年に県立博物館と民俗文化センターが統合され、今の歴史と民俗の博物館になってちょうど10年目の節目の年となります。その間に博物館を取り巻く環境も経済情勢とともに大きく変化してきています。厳しい財政状況が続く中、人員が減らされ、予算も削減され、しかし、入館者数を増やせという、言わば二律背反の目標を達成しなくてはならない、そんな環境の変化でありました。また、25年7月からは、65歳以上の入館料が有料化され、これもまた館にとっては大きな環境の変化でありました。

このような変化に対応するため、わかりやすい展示の工夫や近現代に焦点を当てた企画展などの開催、また、リピーターを取り込む施策を始めたところです。

友の会にあっても、同じく設置から10年目の年であります。10年目を一つの節目として、館とともに変化への対応を引き続き検討いただければ幸いです。言うまでもなく、友の会が一番の博物館応援団でありますので、27年度以降も一層のご支援をお願いしたいと思います。

さて、話は変わりますが、以前、中学校の校長時代に、夏休みの学校行事の一環として、海外語学研修が行なわれました。研修先は、姉妹県であるオーストラリアのクインズランド州の学校でした。

私たち引率した者は、日々、学校での生徒たちの様子を見たり、時には授業に参加していました。ある日、その学校の校長先生からディナーを誘われました。行ったのは、郊外にある劇場でした。劇場といっても、競馬場を小さくしたようなもので、大変大きな建物でした。

ディナーを食べながら見たショーは「OUT BACK」。場内では、騎兵隊が国旗を掲げて颯爽と走り回り、その後ろでは農夫が開墾をしているといった歴史劇が繰り広げられていました。

オーストラリア大陸にイギリス人が入植したのは、18世紀後半ですが、その校長は私に、そのショーは、オーストラリア開拓の歴史だと説明してくれました。でも、日本へのお土産は、オーストラリア先住民であるアボリジニのブーメランでした。開拓とは、イギリス人からの見方、アボリジニからすれば侵略かもしれません。そんなことを考えながらショーを見ていました。

今、日本の過去の歴史観が近隣の国から問われています。歴史や事象の見方は様々であるという認識を持つことが、私たちに求められていることだと思います。

最後に、友の会の皆さま、改めまして一年間ありがとうございました。限りないご発展を祈念申し上げます。

<退職>

- ◎牧 恒男 館長→南部教育事務所 総務・給与担当 室長

<転出>

- ◎堀米俊孝 (総務・給与担当) 担当部長→さきたま史跡の博物館 総務・公園管理担当 担当部長
 ◎栗島義明 (展示担当) 学芸主幹→県民生活部 広報広聴課 企画調整担当 主幹(平和資料館駐在)
 ◎増茂直人 (施設担当) 担当課長→都市整備部 建築安全課 建築指導担当 主査
 ◎平井悠一 (学習支援担当) 担当課長→川口・飯仲小学校 主幹教諭
 ◎池田伸子 (展示担当) 主任学芸員→生活学習文化財課 文化財活用・博物館担当 主査
 ◎井原 伸 (総務担当) 主事→春日部工業高校 主事
 ◎前島俊介 (学習支援担当) 主任→上尾・瓦葺小学校 教諭
 ◎大久根 茂 (学習支援担当) 専門員兼学芸員→文書館 地図センター担当 専門員兼学芸員
 ◎山田 実 (展示担当) 主任専門員兼学芸員→文書館 地図センター担当 専門員兼学芸員
 ◎井上尚明 (展示担当) 専門員兼学芸員→さきたま史跡の博物館 史跡整備担当 専門員兼学芸員

<転入>

- ◎代島常造 館長←文書館 館長
 ◎新井 彰 (総務・施設担当) 副館長←教育総務部 部長
 ◎岩田明広 (企画担当) 学芸主幹←さきたま史跡の博物館 史跡整備担当 主任学芸員
 ◎石坂俊郎 (展示担当) 学芸主幹←県民生活部 広報広聴課 企画調整担当 主幹(平和資料館駐在)
 ◎井上裕史 (施設担当) 担当課長←保健医療部 保健医療政策課 主任(埼玉県立大学派遣)
 ◎佐藤雅裕 (学習支援担当) 担当課長→川口・芝小学校 教諭
 ◎刀根理恵子 (学習支援担当) 担当課長→上尾・瓦葺小学校 教諭
 ◎志村 進 (施設担当) 専門員←文書館 副館長
 ◎二階堂 実 (企画担当) 主任専門員兼学芸員←自然の博物館 副館長兼首席学芸主幹
 ◎関口真規子 (展示担当) 学芸員←文書館 古文書担当 学芸員

<新採用職員>

- ◎大塚優希 (総務担当) 主事 ◎中村陽平 (展示担当) 学芸員 ◎宮原正樹 (展示担当) 学芸員

<臨時的任用職員>

- ◎川崎友梨 (学習支援担当) 学芸員 ◎高橋美貴 (展示担当) 学芸員 ◎竹原 響 (資料調査・活用担当) 学芸員

<館内配置換>

- ◎中山浩彦 (学習支援担当) 主任学芸員←(展示担当) 主任学芸員
 ◎内田幸彦 (展示担当) 主任学芸員←(企画担当) 主任学芸員
 ◎浦木賢治 (展示担当) 学芸員←(企画担当) 学芸員

<再任用任期满了者>

- ◎藤野龍宏 (総務・施設担当) 教育主幹 ◎宮沢 修 (施設担当) 主任専門員

<臨時的任用任期满了者>

- ◎竹内歩花 (学習支援担当) 主事 ◎野北啓介 (展示担当) 学芸員
 ◎奥村麻由美 (展示担当) 学芸員 ◎高田智仁 (資料調査・活用担当) 学芸員

幸手宿から権現堂へー第9回鎌倉古道を訪ねて

友の会・古道探索倶楽部の見学会 4月4日

総勢 20 名。出発時刻には小雨から曇り空となった一日でしたが、全行程を無事終了しました。幸手駅は戦国時代一色氏が幸手城を築いた場所であり、その北東にある天神神社 (裏町天神) は館の守護神、南東にある稲荷神社 (一色稲荷社) は氏の守り神、市中の満福寺 (幸手観音) は一色氏発願寺の祈願とされ、ほかにも神明神社、板碑と十八羅漢像の常光寺、源信作の阿弥陀如来が本尊の担景寺、妙観院、「聖福寺勅使門」の聖福寺、「幸手義賑窮餓之碑」の正福寺と興味深く参拝。幸手宿の本陣跡、問屋場跡、明治大帝行在所御跡、そして「岸本家住宅主屋」をはじめとした蔵造りの商家、その屋根の鬼瓦などなど街並みを見てまいりました。

最後に、何と言っても 1 キロの桜堤と広大な菜の花畑が展開する「幸手権現堂桜堤」をみながら、各自持参のお弁当を広げ、昼食後は思い思いにさくらのトンネルをくぐりながら、「順礼の碑」、「行幸堤の碑」を訪ね、またお土産の買い物も楽しみました。(小侯・犬走)



早春の亀戸地区ー第5回「浮世絵を歩く」を開催

友の会・浮世絵クラブ・映像写真クラブ 2月27日



今回は、早春の亀戸地区。JR 亀戸駅前に参加者 27 名が集合、駅前から路線バスに乗車。バス停・浅間神社で下車。堅川 (立川) が中川に合流するあたりが大江戸名所百景 (広重) の中の「第 67 景 逆井 (さかさい) のわたし」の舞台。かつての風景を想像することはできませんが、カヌーがうかび、のどかな風景です。中川の土手をゆっくり歩いて、亀戸水神へ。休憩のあと、各自で昼食。

午後はまず亀戸神社 (「第 65 景 亀戸天神」) へ。神社を抜けてすぐの北十間川を東に進むと「第 30 景 亀戸梅屋敷」の跡。道路を渡って搦神橋にでると、ここからの眺めが「吾妻の森連理の梓」。東京スカイツリーに向かってしばらく歩くと横十間川との合流地点にでます。かつて柳の木が多いところから名づけられたという「第 32 景 柳しま」です。ここから押上駅まで歩いて解散となりました。(筑井)

市川市国府台の『辻切り』行事を見学

友の会・日本の祭り研究クラブ 1月17日

市川駅前からバスで出発。市川市国府台『辻切り』を見学。悪霊や病気が村に入るのを防ぐための民俗行事で、各村の出入口にあたる四隅の辻を霊力によって遮断することからこの名がついています。室町時代から 500 年続いているというから驚きです。北部ではワラで大蛇 (なかなかの迫力です) を作って、その呪力によって追い払う方法がとられています。

今は保存会によって行事が維持されていますが、他の見学者と会話を交えながら、興味津々に作業を魅入りました。50 年振り及び 10 年振り並びに 5 年振りに来たよとの声も聞き、その伝統に感心。この行事に関心を向ける大勢の人がいる事も、励みになり継続の力となっているのではと感じました。また、地元の小学生 (3 年生以下) 110 名が見学等で場の雰囲気盛り上げていました。(元木)



クラブ活動 今後の予定 (参加自由)

■日本の祭り研究クラブ<日光東照宮春季例大祭> 連絡 (もとき: 090-2259-1673 qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

日時: 5月17日(日) 10時~16時 雨天決行 集合: 東武日光線「東武日光駅」改札出口 午前9時30分
詳細: 「JUNO 3月号」に掲載されています。

■浮世絵クラブ・映像写真クラブ<御茶の水~新宿方面> 連絡 (つくい: 090-1990-4807 pu8n-tki@asahi-net.or.jp)

日時: 4月24日(金) 10時~16時 雨天決行 集合: JR 御茶ノ水駅 聖橋口 午前10時
詳細: 「JUNO 3月号」に掲載されています。

■古道探索倶楽部<与野方面> 連絡 (いぬばしり: 048-756-5634 inubashiri.toudou@cameo.plala.or.jp)

日時: 6月6日(土) 予定 (詳細は「JUNO 5月号」で発表します)

てあぶりがた

邪馬台国と手焙形土器

手焙形土器という不思議な土器をご存知でしょうか。のちの時代の「手あぶり」のような形をしていますが、何に使ったかは、わからない土器。出現したのは弥生時代から古墳時代にかけての謎多き時代。纏向遺跡、埼玉の鷲山古墳など全国から少量ずつ出土。それ以前にお祭りの道具として使われていた「銅鐸」に代わって出現したものであることを考えると、これも祭器か？ この謎多き時代に現れたとすれば、これも、古代最大のロマンにしてミステリーである「邪馬台国」と「卑弥呼」の謎を解く大きなカギになるのでは～と思われま

もう、お申込みいただけましたか？

これは考古学者からの新たな「邪馬台国」論です

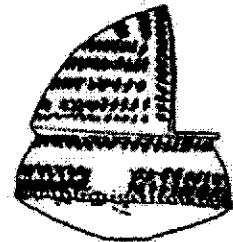
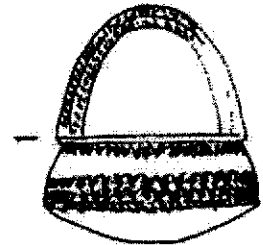
講師 高橋一夫先生

<元・当館館長>

日時 平成27年4月19日(日)

午後1時半～3時

場所 当館講堂(東武野田線・大宮公園駅下車5分)



千葉県市原市長平台遺跡・周溝墓出土
手焙形土器の研究(高橋一夫著
・六一書房刊・98.12)より

ご参加無料

ご参加ご希望の方は、往復ハガキに、この講演会名・住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を明記し、返信面にも住所・氏名を記入のうえ、4月16日(木)必着で〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員(150名)を超えた場合は、お断りすることがあります。
当日は、友の会からお送りした返信ハガキをご持参ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

友の会トピックス

◎今後のイベントスケジュール

- 4月19日(日) 博物館・当会・共催講演会 「邪馬台国と手焙形土器」 1時半～
講師：高橋一夫氏(元・当館館長) お申込み受付中 (詳細前号)
- 4月24日(金) 友の会「浮世絵同好クラブ」の「御茶ノ水～新宿」歩き (詳細前号)
- 5月17日(日) 博物館・当会・共催講演会 「邪馬台国と東国の古墳」 1時半～
講師：日高 慎氏(東京学芸大・准教授) お申込み受付開始
- 5月17日(日) 友の会「日本のお祭り研究クラブ」の「日光東照宮春季例大祭見学」(詳細前号)
- 6月 見学会 「信州・上田城、国分寺、安楽寺八角三重塔など」
詳細次号・ご期待ください
- 7月26日(日) 博物館・当会・共催講演会 「日本列島はどうしてできたか」1時半～
講師：藤岡換太郎氏(海洋研究開発機構特任上席研究員) <受付は本紙正式発表後に>

◎当会のホームページも、ごらんください

<http://junosaitama.expressweb.jp/> または **JUNOSAITAMA** をご検索ください。

◎あなたも「クラブ」の立ち上げを！

いま、友の会には「浮世絵同好クラブ」「日本のお祭り研究クラブ」「古道散策倶楽部」の三つのクラブがあります。友の会の会員を対象に、同好の士が集まって活動していただくものです。あなたのお好きな分野をベースとして、お仲間を集めて「クラブ」を作ることもお考えください。<主幸される方は、友の会に慣れていただくために、他のクラブの活動にもご参加いただき、当会の理事・サポーター会議にご出席くださるようお願いいたします>

友の会・通常総会のご案内

次のとおり、埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会の通常総会を開催いたしますので、会員の皆さまのご出席をお願い申し上げます。

平成27年4月10日

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 会長 宮川 進

◎日時 平成27年5月17日(日) 午前10時～11時30分

◎場所 博物館講堂

◎議題 ☆平成26年度活動報告 ☆平成26年度会計報告・監査報告

☆平成27年度活動計画 ☆平成27年度予算案

☆その他

◎出席は当会会員であること 事前出席申込みは不要です

邪馬台国と東国の古墳

卑弥呼と邪馬台国の時代というと、紀元前と紀元後にまたがる時代。

いまでいう古墳も、このころに造られはじめた。邪馬台国はどこにあ

ったのか？ 近畿であろうが、北九州であろうが、私たちが住む東国

には、あまり関係はなさそう。いや、そうではない。卑弥呼のころに、

東国でも古墳は造られ始めた。そこには想像以上に元気な人たちがい

たのだ。これも邪馬台国解明のカギになるお話！

講師 日高 慎先生 (東京学芸大学准教授)

とき 平成27年5月17日(日)

午後1時半～3時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅5分)

ご参加無料

☆ご参加のお申込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号を明記、返信面に住所、氏名を記入、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切5月14日(木)。☆定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。当日は返信ハガキをお持ちください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成27年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

世代を超えて語り合える物語性を紡ぎ出す

館長 代島 常造

友の会の皆さま、この4月に館長に就任いたしました代島常造と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

県職員採用後33年が経過しましたが、最初の30年間は、人事、給与、広報などの行政事務が続いていました。しかし、一昨年に埼玉県教育局生涯学習文化財課長、昨年は埼玉県文書館長と文化財関係の仕事が続き、今回で3年目ということになります。

さて、埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会は、平成18年度に県立博物館から歴史と民俗の博物館に再編された時の高橋館長が、これからは県民の皆さんから支持される博物館にしようということで「会員相互の知識の向上と親睦を図り、館を応援すること」を目的に発足しました。いわば館のサポーター的な存在です。現在は500名を超える会員により構成され、講演会や講座、見学会などの開催や会報発行等の情報発信、クラブ活動など、大変活発に活動しています。

ところで、平成19年6月に定めた「歴史と民俗の博物館の使命について」に「県民と協働した生涯学習を推進する中核的施設としての役割を果たす」「博物館の資料を核にして県民の皆さんが集い、交流し、活動する快適空間を提供します」と書いてあります。

友の会は、こうした館の使命を実現するために協働する重要な存在です。今後とも、会が益々発展するとともに、会員の皆さまが、会の活動を通じて一層研さんを深め、様々な場面で活躍されるとともに、当館のため引き続きお力添えをいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

ところで、家庭や地域の間関係が希薄化しているといわれて久しい訳ですが、東日本大震災等を契機に、助け合いや地域コミュニティの大切さが改めて認識されています。博物館では、今日まで企画展「氷川神社と大宮公園」が開催されていますが、県民共通の宝ともいえる展示資料の持つ力に触れようと、地元を始め多くの方が連日来館して、集い、交流し、活動していました。来館者の多くは、展示室から静かに出て来て、うっとりした表情であるいは何か考えながら、感動に浸った様子で帰っていきます。お帰りの方に「有難うございました」とあいさつをする度に、今の感動を大切に持ち帰り、家族で又は地域で、世代を超えて語り合い、絆を深めていただけたらいいなと願っている次第です。

博物館は、日頃から資料の調査研究を十分行い、世代を超えて多くの方が感動し語り合えるような、県民共通の物語性を紡ぎ出し、展示等の形にして提供しております。県民の皆さまには、それぞれに美しい物語性を感じていただき、家族や地域の絆を深める契機としていただければ誠に幸いと存じます。

友の会トピックス

☆バス見学会の会費の値上げについて

友の会としての第一回のバス見学会は友の会創立年度の平成19年1月でした。この時の参加費は5000円~ただし、昼食は「各自持参」でした。今はほとんど、現地食堂の1000円程度の昼食付きにしておりますから、ずっと6000円~6500円程度で続けてきたこととなります。ところが昨年、思わぬ状況の変化が起こりました。それは観光バスで種々の大事故が発生し、業界の労働環境の改善が必要とされて、業界全体（特に関東地方）でバス料金の値上げが実施されることになったのです。以前からのコネを生かして~など、友の会としてもバス見学会の会費の維持に努力してまいりましたが、観光バス業界としての取り決めなどに対しては、いかんともしがたく、今後は2000円程度の値上げはご了承いただかねばならないこととなりました。見学会の内容としては、さらに皆さまに魅力あるもの、ご満足いただけるものとさせていただきたく、ますますの努力を払う所存でございますので、なにとぞ、事情ご賢察のうえ、お許しをいただきますよう、お願いをいたします。

☆今後のイベントスケジュール

- 05月17日(日) 博物館・当会・共催講演会 「邪馬台国と東国の古墳」 1時半~
講師：日高 慎氏(東京学芸大・准教授) お申込み受付中
- 05月17日(日) 友の会「日本のお祭り研究クラブ」の「日光東照宮春季例大祭見学」(詳細4号)
- 06月16日(火) 見学会 「信州・上田城、国分寺、安楽寺八角三重塔など」
受付開始 詳細・本号参照
- 07月26日(日) 博物館・当会・共催講演会 「日本列島はどうしてできたか」1時半~
講師：藤岡換太郎氏(海洋研究開発機構特任上席研究員) <受付は本紙正式発表後>

☆当会のホームページも、ごらんください

<http://junosaitama.expressweb.jp/> または **JUNOSAITAMA** をご検索ください。

☆あなたも「クラブ」の立ち上げを！

いま、友の会には「浮世絵同好クラブ」「日本のお祭り研究クラブ」「古道散策倶楽部」の三つのクラブがあります。友の会の会員を対象に、同好の士が集まって活動していただくものです。あなたのお好きな分野をベースとして、お仲間を集めて「クラブ」を作ることもお考えください。<主宰される方は、友の会に慣れていただくために、他のクラブの活動にもご参加いただき、当会の理事・サポーター会議にご出席くださるようお願いいたします>

☆当会・通常総会のご案内 <出席資格は当会会員であること 事前出席申込みは不要です>

◎日時 平成27年5月17日(日) 午前10時~11時30分 ◎場所 博物館講堂

◎議題 ☆平成26年度活動報告☆平成26年度会計報告・監査報告☆平成27年度活動計画

☆平成27年度予算案☆その他

◆ 『鎌倉街道を訪ねて』 番外編 「与野道・加村往還」 ◆

古道探索倶楽部の第10回見学会

- ・ 集合：2015年6月6日(土) 9時30分 JR東日本 埼京線 南与野駅(普通のみ停車)
- ・ 行程(内容)：妙行寺→鈴谷大堂→鈴谷天神社→円福寺→円乗院→天祖神社→御嶽社→一山神社→長伝寺→氷川神社→満福寺→金剛院→日進神社
- ・ 費用その他：資料保険代等300円。少雨決行(悪天候時には、連絡します)。南与野駅は、普通のみ停車です。快速は止まりませんお気を付けてください。歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると約10kmです。歩きやすい服装・靴でご参加ください。昼食はあらかじめ用意してください。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
- ・ 問合せ先 前日まで犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634
当日は 小俣(おまた) 携帯 090-3436-9017
- ・ 申込方法：5月29日(金)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して。〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて
主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 古道探索倶楽部

◆ 『大江戸名所百景』を歩く—第7回 神田川～高田の馬場～新宿◆

鬼子母神参道から緑陰の神田川散策路そして庭園と椿山

- ・ 集合：2015年6月19日(金) 都電荒川線「鬼子母神前」(=副都心線「雑司ヶ谷」)駅前 午前10時
- ・ 行程(内容)：ゆっくり楽しんで歩くを基本にします。鬼子母神参道→目白不動→面影橋→神田川緑道→江戸川公園→水神社→芭蕉庵→椿山荘→高田馬場(昼食休憩)→新宿→熊野神社。江戸風情の残る鬼子母神参道から緑陰の神田川へ。さらにいくつもの名庭園。該当浮世絵「第40景 せき口上水端ばせを庵椿山」「第116景 高田姿見の橋」「第115景 高田の馬場」「第50景 角筈熊野一二社」。午後3時頃解散予定。
- ・ 費用その他：保険資料代300円予定。他に、交通費(電車等)、昼食代など。雨天決行
- ・ 申込方法：(以下でお願いします)
①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp
③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォーム。
*氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 *問い合わせ電話 090-1990-4807(つくい)
主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵クラブ/映像写真クラブ

◆ 久喜提灯祭り・天王様(1日目)日本の祭り研究クラブ(第8回) ◆

400個以上の提灯をまとった日本一の提灯山車(久喜市)

- ・ 集合：2015年7月12日(日) JR東北本線「久喜駅」改札出口 午後3時00分 雨天決行
- ・ 行程(内容)：290年以上の歴史を持ち、12日と18日に埼玉県久喜市西口を中心に7台の山車が曳き出される。山車は昼間は人形を乗せ、華麗な飾りつけされ、夜は400個以上の提灯をまとった日本一の提灯山車となる。
- ・ 費用：保険代など100円。他に、交通費(電車等)、夕食代
- ・ 注意：歩き易い靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等
- ・ 申込・連絡先：元木孝 TEL：0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)
主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 日本の祭り研究クラブ

これまでに開催した「行事」や「お知らせ内容」についてはホームページ(ブログ)もご覧ください
ホームページ <http://junosaitama.expressweb.jp/>

初 夏 / 信州上田の名城・名刹へ！

徳川軍を二度も撃退した「真田の名城・上田城」

今も信仰を集める「信濃国分寺と史跡公園・資料館」

別所温泉地内の三名刹「安楽寺・常楽寺・北向観音」

< 見学コース >

①現在の信濃国分寺と信濃国分寺史跡公園・信濃国分寺資料館

②国指定史跡・上田城跡公園

③国宝・安楽寺八角三重塔～鎌倉末期ごろの建立と推定

④重文・常楽寺石造多宝塔～弘長2年(1262)の刻銘

⑤長野善光寺に相對して建つ現生利益の北向観音

*歩く場所が多く、石段もありますので、歩きやすい服装・靴でお出かけください

*昼食は、真田幸村で名高い上田城や歴代上田藩主居宅跡(現・上田高校)に近い寛ぎの宿「ホテル祥園」で、地元料理と本格そば

*バスの往復とも、「上里サービスエリア」で小休憩

日 時 平成27年6月16日(火)

集 合 午前7時30分 (時間厳守をお願いいたします)

大宮駅西口・ソニックビル西側に大型バス待合わせ(友の会旗を掲示)

参加費 8000円(観光バス料金大幅値上げのため) =当日徴収

ご参加のお申込みは～

締 切 6月13日(土)

定 員 45名(先着順とさせていただきます)

申込資格 会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます

申込方法 往復ハガキに住所・氏名・会員番号・電話番号(お持ちの場合は携帯も)を明記し、〒330-0852さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏男へ
=お問合せ 048-652-7324(または下記携帯へ)

その他 座席のご希望、集合場所地図のご希望はハガキに明記ください

*当日緊急連絡先 090-7170-3294 グループリーダー 岩井隆興
090-9104-2979 事務局 高瀬敏男

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成27年6月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

私 の ＊ 古 寺 巡 礼 ＊

理事 小林 都子 (宮代町)

仏像に興味を持ったのは、10年ほど前、日本橋高島屋で開催された白洲正子展を見たことに始まります。彼女の生き方に憧れ、武相荘を訪れたり、著書を片端から読みあさったり、十一面観音にも夢中になりました。江戸三十三観音巡礼をしたり、関東地区の十一面観音を調べて参拝したりしましたが、個人で言ってもなかなか思うようにいかず悩んでいました。

そんな時、保育園勤務時代の友だちから、以前、研修の機会に訪れた高野山・奈良へ行こうというお誘いをうけ、～研修内容は忘却の彼方だったけれど～脳天気な朗らか三人旅に出かけました。はじめは高野山奥の院へ。空を覆うような老杉そびえる雰囲気、に圧倒されながら、弘法大師の御廟へと、歴史上の人物の石塔が並ぶ参道を進むと不思議に心が安らぎました。次は吉野の山へ。金峰山寺・蔵王堂の前を通り、山道を歩き、中千本の桜樹の中の古刹如意輪寺へ。ここは研修の時、保育者・女ばかり6人が本堂に一泊させていただいたお礼をかねての訪問です。園長とご住職が友だちだというご縁でお世話になったのです。山の中なので訪れる人は少なく、風雅なお寺で、でも歴史は古く、南朝哀史の舞台になったところ。裏山の後醍醐天皇の塔尾陵宝物館には、運慶の弟子の源慶の蔵王権現立像があり、86cm余りの小像ですが、憤怒の形相が迫力ある素晴らしい仏像。忘れられないところとなりました。

奈良は法華寺へ。尼寺の持つ、さわやかな香りがただようようなお寺でした。

美貌の皇后、光明皇后がモデルといわれる本尊の十一面観音を参拝させていただきました。春の御開帳の時期だったのは本当に幸いでした。「えっ」と思うほど、像高は想像よりも小さかったけれど～紅をさした口もと、天衣をちょっと右手の指の優雅な形、腰をひねって右足を前に出す姿は、衆生を救うために今にも歩き出そうとするような観音さまの優しい心の現われでしょうか。

次は奈良から大阪へ。吉野・如意輪寺のご住職のすすめで、大阪河内の山中に立つ観心寺。ご本尊の如意輪観音座像をお訪ねさせていただきました。平安前期の密教美術の隆盛を物語る仏像と言われています。仏像の中でも美仏と言われ、白洲正子も愛した仏です。

「この官能的な仏には女体の最高の美を示すことによって、煩惱を転機に菩提へ導くという、逆説的な意味があるかも知れない。そんな回りくどい言い方をするまでもなく、要するに、惚れこむことが信仰の第一歩だ」と。眼前にある、以前読んだ本の一節。最高の幸せを感じたことでした。

これからも、私なりの古寺巡礼を続けたいと思っています。湖北の仏像たち、東北の仏像たちにも会いたい。美術館や博物館にも足を運びたい！

友の会に入会して、もうすぐ7年。講演会、見学会に参加させていただき、新しい知識を得る喜びを知りました。そして友の会の皆さまとの交流は、人生を豊かにし、友情の華を咲かせてくれています。嬉しいことです。幸せです。

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- 6月16日(火) 見学会 「信州・上田城、国分寺、安楽寺八角三重塔など」
参加費値上げにもかかわらず、ご支持をいただき、満員となりました。ありがとうございました。満員後、お申込みいただき、お断りさせていただきました方々にお詫びを申し上げます。お許してください。
- 7月26日(日) 博物館・当会・共催講演会 「日本列島はどうしてできたか」1時半～
講師：藤岡換太郎氏(海洋研究開発機構特任上席研究員) 本号で発表。
お申込み開始。お友だちもお誘いのうえ、お申込みください。
- 8月 見学会実施予定 <現在検討中・発表を暫時、お待ちください>
- 9月26日(土) 博物館・当会・共催講演会 (題名未定・幕末の砲術家で開国に関しての意見具申で、その先進性を高く評価されている高島秋帆について。もともと、長崎の人であるが、彼は埼玉にも関係があった。①岡部藩に幽囚されていた～②川口に大砲鑄造を依頼～ 講師：小池喜明・東洋大名誉教授 1時半。当館講堂)
東京の高島平は秋帆が洋式砲術の公開演習を行なったことにちなむ地名

☆5月17日の当会通常総会でご承認いただいた、26年度の収支報告書です。赤字決算ではありますが、これまでの繰越金もあり、頑張っってやっておりますことをご報告申し上げます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 平成26年度収支報告書

自 平成26年4月1日
至 平成27年3月31日

収入の部			
項目	予算高	決算高	備考
年会費	1,000,000	984,000	費-1
半年会費	30,000	31,000	
事業収入	2,200,000	2,427,104	費-2
雑収入	10,000	5,070	
合計(ア)	3,240,000	3,447,174	
支出の部			
項目	予算高	決算高	備考
運営費関連			
会費費	65,000	56,046	
旅費交通費	130,000	83,774	
備品・用品	150,000	150,817	
通信	600,000	616,845	
印刷	10,000	4,250	
手数料	10,000	216	
小計	885,000	811,788	
事業費関連			
講演会	350,000	305,003	
見学会	1,800,000	1,958,020	
雑費		125,690	
小計	2,150,000	2,388,713	費-3
負担金	200,000	264,700	費-4
合計(イ)	3,335,000	3,565,101	
当期収支差高(ウ-イ)	-95,000	-117,927	(ウ)
前期繰越金		926,251	(エ)
前受金		698,000	(オ)
次期繰越金(ウ+エ)	831,251	808,324	(カ)

資金管理簿	
(27年3月31日現在)	
引当金	57,714
銀行振替預金	1,688,200
当座預金	186,000
現金	0
未払金	125,690
合計	1,804,324

(オ+カ)

「日光東照宮春季例大祭」を見学しました!

友の会・日本の祭り研究クラブ 5月17日

曇一つない好天に恵まれ、爽やかな空気の味を求め、チョット遠出して日光東照宮春季例大祭に出かけてきました。

徳川家康公没後 400 年の記念の年を迎える節目の年。家康公をお祀りする日光東照宮見学と流鏑馬神事並びに神輿三基が二荒山神社に渡御の「育成祭」の一部を見に男女計 6 名。この日は 10 時から御本社で例大祭斎行、徳川御宗家、奥社参拝そして流鏑馬神事と続く。われわれは、9 時 30 分東武駅集合後、ノンビリ歩きながら神橋から杉並木を通り、石鳥居を経て、五重塔初重内部心柱が特別公開されており見学。神殿舎では、人間の一生が風刺されている「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿の彫刻を見る。

陽明門は改修工事中で見らず。回廊は国宝で我が国最大級の花鳥の彫刻が飾られおり、いずれも一枚板の透かし彫りには極色彩がめでやかである。本日のメインイベントの流鏑馬神事開始が一時間遅れで 2 時 30 分に開始された。最後は、東照宮の神が神輿 3 基に分乗し、約 250 名の行列を整え二荒山神社拝殿に渡御の進発「育成祭」をチョットだけ見て駅に向かう。本当に最後まで天候にも恵まれ、楽しい一日が過ごせたのではないのでしょうか! (元木)



御茶ノ水から四谷まで一第6回「浮世絵を歩く」を開催

友の会・浮世絵クラブ 4月24日

今回は御茶ノ水(駿河台)から市ヶ谷を経て四谷まで、ちょうどJR中央線に沿って移動する感じの「街歩き」になりました。出発は御茶ノ水駅。32名というこれまでで最多の人数。近くの聖橋からの眺めを「第47景 昌平橋聖堂神田川」ということにしました。聖堂内で江戸古地図を示しながらこの後の行程を説明。次いで神田目明神へ。「第10景 神田明神曙之景」の場所は本殿横の駐車場付近と思います。中山道に戻って万世橋へ。この橋は明治初年に、筋違門の石を利用して作られたそうです。「第9景 筋違内八ツ小路」が江戸時代のこの付近の空間を再現してくれています。御茶ノ水駅にもどり、水道橋まで外堀通りを歩きます。途中に「水道橋の碑」のあるポケットパーク。水道橋駅名の由来になった神田上水のかけひ(水道の通る橋)の跡。この付近の眺めが「第48景 水道橋駿河台」。



飯田橋から市ヶ谷駅まで新緑の外堀公園をゆっくり歩き、市ヶ谷橋へ。ここの橋からほど近い「第41景 市ヶ谷八幡」は急峻な石段を登ってお参り。市ヶ谷駅から地下鉄・都営新宿線で曙橋へ。新宿通りを歩いて四谷追分へ。「四谷大木戸跡」と「玉川用水の碑」の史跡が建っています。「第42景 玉川堤の花」「第86景 四谷内藤新宿」の舞台です。新宿・熊野神社にはいけませんでした。(筑井)

クラブ活動 今後の予定 (参加自由)

■日本の祭り研究クラブ<久喜提灯祭り> 連絡(もとき:090-2259-1673 qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

- ・期日:7月12日(日) 午後3時~午後8時 雨天決行
- ・集合:JR東北本線「久喜駅」改札出口 午後3時 雨天決行
- ・申し込み:TEL:0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)
- ・詳細:「JUNO 5月号」に掲載されています。

■浮世絵クラブ<高田の馬場~新宿> 連絡(つくい:090-1990-4807 pu8n-tki@asahi-net.or.jp)

- ・期日:2015年6月19日(金) 小雨決行
- ・集合:都営荒川線「鬼子母神」駅前(=メトロ副都心線・雑司が谷) 午前10時
- ・申し込み:FAX(048-470-2758) またはホームページより「フォーム」での連絡。Eメールも可。
- ・詳細:「JUNO 5月号」に掲載されています。

■古道探索倶楽部 連絡(いぬばしり:048-756-5634 inubashiri.toudou@cameo.plala.or.jp)

7~8月のイベントは取りやめました。次回の第11回鎌倉街道を訪ねて番外編第2弾は「日進~上尾」を9月に計画しております。詳細は次号以降でご案内いたします。今後ともよろしく願いいたします。

日本列島は どうしてできたのか



～ 海と陸から探る列島成立の謎 ～

46億年の地球の歴史の中で、僅か(!)1,500万年前から始まった日本列島形成の壮大なドラマを案内していただきます。

今から1,500年前の6世紀は古墳時代。その10倍前の15,000年前は縄文海進が始まったとされる頃。それに対して、日本列島の形成史は縄文海進の始まりより一千倍も昔の活動に由来しています。そもそも逆“く”の字型に島弧をなす形がどうしてできたのか？中部山岳地帯の隆起は、いつ、どのように始まったのか？

海からの視点を加えることにより古い時代の情報を集めてこられた海洋地質学がご専門の講師に、地球進化の理論と探査経験に基づいたお話を伺います。講師は、有人潜水調査船「しんかい6500」の最多乗船研究者でもあり、宇宙と並ぶ人類のフロンティア“深海”のパイオニアとして、地球科学をベースにした地球進化の歴史を海からの視点も加えて追及してこられました。

講師 藤岡 換太郎 先生

(元 海洋研究開発機構特任上席研究員)

とき 平成27年7月26日(日) 午後1時半～3時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅徒歩5分)

ご参加無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号を明記、返信面に住所・氏名を記入、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切7月23日(木)。定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。当日は返信ハガキをお持ちください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成27年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

三ノ宮卯之助、越谷吾山、お里勢、浄山寺地蔵仏…

会長 宮川 進 (越谷市)

三人の江戸時代の越谷のヒトと越谷の仏像です。はじめて聞かれた方ばかりだと思います。

◎卯之助は文化4(1807)年生まれ。力持ちの一座を組んで全国を回り、持ち上げた力石は姫路、大阪の天満の天神さん、信州・諏訪大社、江ノ島神社奥宮などに残り、最重量は桶川稻荷神社の、なんと610kgのもの。当時の力持ち番付の東方大関(横綱制度なし)も占めて、日本一の力持ち。

◎越谷吾山は1700年代の俳人で、南総里見八犬伝の作者・滝沢馬琴の俳句の師匠。日本で初めての方言辞典「物類称呼」をつくる。日本方言学の始祖といわれ、方言学講義の最初に出てくる。

◎お里勢は国学・四大人(うし)の一人の平田篤胤の夫人。幼い娘を残して夫人が亡くなり困っていた篤胤に、門人で越谷の豪商・山崎長右衛門が後添いとして娶わせた、近くのお豆腐やさんの娘。篤胤の生活を支え、彼が秋田謹慎となって(天保12年、1841)も、付き添って生涯の伴侶となった。

◎そして、浄山寺地蔵立像は、年2回のご開帳以外は秘仏であって、未調査、未鑑定であったが、3.11大震災で厨子が倒れ、足の部分が破損。その修理の際にご覧になった林 宏一氏(元・当館館長)の鑑定は平安時代初期のもの。今年初、県指定文化財となった

わがマチの「越谷市史」には、浄山寺地蔵尊の最新情報以外はサラリとは載っていますが、おそらく、市外の方はまったくご存知ない。けれど、市民の私たちは誇りに、タカラに思っているヒトたちです。街道町の越谷、あまり「人物なんていないだろう」と思うところでさえ、こんなに知られざる情報はあるのです。よその地の方にも興味をもっていただけ情報があるのです。

問題は、このような情報が歴史の壁の中に埋もれてしまっていることです。面白い情報(下世話な言葉でいうと「ネタ」)を知ってるヒトが、「こんなことは、ほかの土地のヒトには面白くねえよなあ」と遠慮し、「ローカルな話題だから、笑われちゃうなあ」と恥ずかしがり、「不真面目だと、怒られちゃうか?」と反省して、せつかくの情報を教えてくれないので、不幸なことに、お隣のヒトの知っている、面白いことを、そのお隣のヒトが知らないのです。

実は、厚顔無恥なワタシでさえ、見出しの言葉を書くのに躊躇したのですから…

こんなことを、例の日本に外国のヒトが来て、われわれが何とも思ってなかったことに、ひどく感心し、喜んでくれている一の光景を見て感じたのです。もうひとつは、一昨年、越谷で「越谷七不思議」を郷土研究会のみんなで作って、予想以上に楽しんでいただけたということもあります。一個一個はあんまりのモノ、訳のわからないモノであっても、それをつなぎ合わせると面白いものになることもあるのです。

いままで知らなかった面白い情報(ネタ)を、いっぱい聞きたい。それは、まさに「人生の楽しみ」ではないでしょうか。外国旅行をしなくても、トナリマチに行くだけでイッパイの楽しみがある。その、いまのイチパンの問題は、そういう情報がどうしたら集められるかということですが一

友の会トピックス

☆今後のイベントスケジュール

- 7月26日(日) 博物館・当会・共催講演会 「日本列島はどうしてできたか」1時半～
講師：藤岡換太郎氏(元・海洋研究開発機構特任上席研究員)
締切はすぎましたが、当日、会員証をご持参のうえ、お越しください。
- 8月7日(金) 友の会・会員限定・プレミアム講座「武将のこころ」1時半～3時
講師：関口真規子氏(当館学芸員)
戦国武将の人間性を示す心の一面を～ 当館講堂 <本号で発表>
- 8月18日(火) 友の会・会員限定・見学会「さきたま古墳群をもうちょっと詳しく知りたい」
講師：井上尚明氏(元・当館副館長) <本号で発表>
＝開催中の<最新出土品展>で県内で昨年発掘された遺跡出土品見学＝
- 8月21日(金) 友の会・映像写真・浮世絵クラブ「写真と映像の会」2時～5時
友の会の活動、文化財、文化一般に関する会員の作品上映
当館講堂 会費300円程度要 <本号で発表>
- 9月26日(土) 博物館・当会・共催講演会 (題名未定・幕末の砲術家で開国に関しての
意見具申で、その先進性を高く評価されている高島秋帆について)
講師：小池喜明氏(東洋大名誉教授) 1時半～。当館講堂
もともと、長崎の人であるが、彼は埼玉にも関係があった。
①岡部藩に幽囚されていた～②川口に大砲铸造を依頼～
<東京の高島平は秋帆が洋式砲術の公開演習を行なったことにちなむ地名>
☆お申込みは次号で正式発表の後に！
- 10月には、友の会・会員限定・見学会を予定。行き先はときがわ町・慈光寺。博物館特別展
「慈光寺—国宝・法華経—品経を守り伝える古刹—」にタイミングを合わせ開催するものです。詳細未定。ご期待ください。

☆今年度のプレミアム講座の予定 <変更することもあります>

○当館の会員対象に特別に行なっていただいているプレミアム講座の予定は次のとおりです。

- | | | |
|--------|-------------------|------------------|
| ☆10月中旬 | 「特別展『慈光寺』関連のお話」 | 西口由子氏(専門は日本美術史) |
| ☆12月初旬 | 「(未定)」 | 野中 仁氏(// 保存科学) |
| ☆1月下旬 | 「(未定)」 | 岩田明広氏(// 日本考古学) |
| ☆3月19日 | 「企画展『蔵出し資料』関連のお話」 | 加藤光男氏(// 日本近世史) |

○プレミアム講座は、会員限定です。会員のお友だち、ご家族はご参加いただけます。お誘いの
うえ、ご遠慮なく、ぜひ、お越しください。

☆友の会のサポーターにご参加ください

受付などの仕事をしていただいているサポーターの方々も、おかげさまで、各グループ20名を
超すほどになってきました。あなたもぜひ、ご参加を！ ご説明は土・日・祝に友の会窓口で。

羽根倉道を訪ねて—「与野道・加村往還」

友の会・古道探索倶楽部 6月6日



9 回に分けて鎌倉古道中道をほぼたどり終わり、今回は中道と上道をつなぐ羽根倉道のうち、与野道 (さいたま市中央区)・加村往還 (大宮区、北区) を訪ねてきました。参加された女子 5 名、男子 12 名およびスタッフ 5 名の総勢 22 名の方々です。埼京線南与野駅を出発し、中世から“旅人の道標”だった「与野の大かや」(国指定文化財・天然記念物)、「もっこく」(県・天然記念物)のある妙行寺から、「与野七福神」をめくりながら与野道を南から北へと進みました。まちなみの南には、庚申堂が「江戸道」、「甲州道」を分けます。まちなみは、度重なる大火により、道路との間に前庭 (防火用地) をもった土蔵造り住宅がならび、そこには市を開き賑やかであり、また桜並木が美しかったといわれていました。

写真の日本三大塔の一つ多宝塔のある円乗院の本堂は修復中でした。与野の文化人、俳人・鈴木牡丹、儒者・西沢こうや、天文暦学者・稲垣田龍の墓 (市・史跡) もめぐりました。加村往還にはいり、板碑、庚申塔などの石仏をめくり、最後に市・無形民俗文化財で有名な「日進の餅つき踊り」の日進神社から、8 月の「日進七夕祭り」で賑うと言う商店街を通り埼京線日進駅で解散となりました。(小俣)

神田川・面影橋から一雨の中、第7回「浮世絵を歩く」

友の会・浮世絵クラブ 6月19日

初めての雨天になってしまいました。それでも都電荒川線『鬼子母神前』には 20 名が集合。江戸風情の残る鬼子母神にお参りのあと参道を経てかなりの急坂を下って目白不動から神田川に。最初の目的地である面影橋は「第 116 景 高田姿見の橋」の舞台。ここで記念撮影。神田川緑道を経て旧細川家庭園が残る新江戸川公園では、アジサイがきれいでしたが一時かなりの雨になりました。さらに少し戻って、2 つめの庭園である甘泉園へ。ここはほんの少し歩いただけ、そのすぐ隣が高田馬場跡。「第 115 景 高田の馬場」で有名なところですが、商店街に当時の面影はありません。バスで JR 高田馬場駅へ。昼食休憩ですが、降りやまぬ雨もあり、ここで 7、8 人がリタイアしました。

昼食後、JR 山手線で新宿へ。地下道を歩いて新宿中央公園まで行き、角筈低地との境にあるのが熊野神社。「第 50 景 角筈熊野一・二社」では背後に滴々たる水をたたえた池が広がっていますが、いまや西新宿の大都会に変わっています。全体を通して、やはり雨の中の街歩きは大変だと反省した次第です。参加者の皆さん、お疲れ様でした。(筑井)



友の会会員の「写真」や「映像」を募集します！ 映像写真・浮世絵クラブ

■ 8月21日に「写真と映像の会」 ■

友の会会員であればどなたでも発表・参加できる「写真・映像の会」を開催します。内容・形式については、友の会の活動や埼玉県文化財・文化一般に関するものであれば自由です。作品の技術や芸術性ではなく普段の生活の中での作品をみんなで楽しもうという趣旨で、初心者の方もぜひご参加ください。写真については、あらかじめデジタル化して、講堂の大きなスクリーンで上映し、内容について説明をすることができます。作品発表なしで、参加 (鑑賞) のみの方も歓迎です。(「友の会ホームページ」のリンク<写真と映像の会について>をお読みください。)

- ◆日時 2015 (平成 27) 年 8 月 21 日 (金) 14:00~17:00 (13:30 から受付)
- ◆場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講堂 (会場使用料: 300 円程度)
- ◆内容 ①クラブ員発表「浮世絵の風景」「古墳・遺跡・文化財」(予定) ほか②会員の発表③今後の予定などの懇談
- ◆参加申込 (以下のいずれかでお願ひします)
 - ・FAX: 048-470-2758 ・Eメール: pu8n-iki@asahi-net.or.jp ・「ホームページ」の「申込フォーム」から
 - <氏名・会員番号・連絡先電話、①作品応募 ②参加のみ 一を明記>

①作品応募の場合、事前 (8/14 まで) に以下で作品を送ってください。
 <郵送先> 〒351-0035 埼玉県朝霞市朝志ケ丘 4-10-13-602 筑井信明 レターパック (360 円) が便利。
 <形式> 「写真」紙焼の場合は A4 サイズ以下 (当方でスキャン→スライド化)。データの場合は JPG、TIF など再現可能な画像形式で DVD か USB メモリーに保存。基本は一人 5 点まででタイトルが必要。「映像」は「MP4 形式」か「WMV 形式」で保存して 15 分以内程度で上映可能なこと。いずれも OS が windows であればバージョンは問いません。

武将のこころ

～戦国武将の信仰心が見えてくる～

徳川家康、武田信玄、上杉謙信、伊達政宗、…… 戦国武将が愛用した甲冑や書き残した文書から、彼らの人間性を示す心の一面、中でも信仰心が垣間見えます。特別展「戦国図鑑 -Cool Basara Style-」に関連して、本年度第一回目のプレミアム講座を開催します。本講座は、翌日に予定される館主催の歴史民俗講座と同一の内容ではありますが、質問時間を充分にとつて、講師の先生との交流を図りたいと思います。

講師の関口真規子さんは、日本中世史を専攻され、特に仏教史がご専門です。今年度より、県立文書館から当館に転任され、今回の特別展を担当されます。

講師 関口真規子氏 当館展示担当学芸員

とき 平成27年 8月7日(金)午後 1時半～3時

ところ 当館講堂

事前の質問歓迎！

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、あらかじめの質問があれば簡単に記入を！ 7月31日(金)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

さきたま古墳群を もう、ちょっと、詳しく知りたい

埼玉県民の誇りであり、タカラである行田の《さきたま古墳群》。何回も行かれた方も多いことでしょう。しかし、そのオハナシをどれだけくわしく知っているのか？

友の会の会員だから、もうちょっと詳しく知りたいと思う～。
そんなご希望にお応えして、これは「決定版！さきたま古墳見学会」です。さきたま史跡の博物館で開催中の「最新出土品展く地中からのメッセージ」見学とあわせて、ぜひご参加を！！

実施日 平成27年8月18日(火)

集合 午前10時・さきたま史跡の博物館

(高崎線・吹上駅からバス10分、「産業道路」下車徒歩15分、9時6分・26分発車)

ご案内 元・当館副館長 井上尚明先生

参加費 1000円 <入館料・資料代その他>

<当日は各自、お弁当などご持参のこと。交通費もご自弁となります。■脚の向き>

◎ご参加のお申込みは、往復ハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号、このイベント名を明記、返信面に住所・氏名を記入、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切：8月15日(土) 定員50名を超えた場合はお断りすることもあります。当日は返信ハガキをご持参ください。<会員限定ですが、ご家族、お友だちはご参加可>

◎プログラム ☆10時～12時 出土品展見学後、講堂で「さきたま古墳群」の説明

☆12時～12時45分 昼食 ☆12時45分～15時 現地説明

◎何をおききできるか？ ○丸墓山が円墳である証拠 ○丸墓山から見ると～・群馬の大田天神山は見えただか ・古墳を造った人たちは何処にすんでいたか ○稲荷山の鉄剣とホントの主体部の関係 ○二子山古墳の不思議な空白地 ○將軍山古墳のオタカラの出た場所 ○戸場口山古墳の位置 ○奥の山と鉄砲山との重なり合いは～ <現地解散>